

13. 社会貢献

近年大学の役割として、教育・研究に加え社会貢献が強く求められている。本学は、「学術支援機構」の下に「エクステンションセンター」、「実用化技術研究所」等を置き、それらを中心として以下に述べる教育面と研究面における社会貢献への施策を実施している。その到達目標として、まず教育面では、社会のより幅広い層への生涯学習の実施とそれを通じた社会との文化交流により講座への満足度を高め、学園の支持を高めることである。一方、研究面においては、産学連携による研究を推進することによって、本学の研究成果を社会に還元・開示し地場産業との交流を深め、研究の実用化と地場産業の活性化を推進することである。

(一) 教育における社会貢献

(イ) 社会との文化交流を目的とした教育システムの充実度

本学は「開かれた学園」の考え方にもとづき、昭和55年から公開講座をスタートし、情報関連講座を中心とし、その他にも一般の講話やミニコンサート等の開催を行ってきた。さらに、「開かれた学園」の精神を受け継ぎ、平成13年にエクステンションセンターを本学に開設した。同センターは、資格取得、情報関連、文化教養の3本柱からなる講座を設けすでに3年を経過したが、この間多くの受講者の好評を得てきた。この中で、情報関連と文化教養の講座は、殆どの受講者が本学の学生以外の一般市民である。また、これらの受講者は、講座受講前後に学生食堂や図書館を利用しており、このような機会が大学教職員や学生との交流の場となっている。講座の評価については全講座に対して受講者アンケートを実施している。項目は講座の内容、受講料、接遇などで、センター運営全般の点検・評価を行い、次年度に反映している。

このような本学のエクステンションセンターを中心とする公開講座のあり方を、将来を見すえた教育システムとして考えると、現在行っている学内の教職員を講師とした公開講座を充実発展させるとともに、一般市民を講師とした幅広い分野での講座の開講、更には大学教育の一環として実施している聴講生・科目等履修生の制度を利用して、一般社会人が学べる場所、機会を提供する等の方策が考えられる。また、一般社会人が多く本学で学ぶことにより、それが刺激となって反って本学の学生の学習意欲および緊張感を高める相乗効果を出すことも期待できる。今後は、このような観点も考慮しつつ、より充実した社会との文化交流を目的とした教育システムを構築し、更なる地域貢献を図っていくことが次への目標である。

(ロ) 公開講座の開設状況と市民の参加状況

社会貢献の一つの柱として生涯学習が大学における重要な課題となっている。本学